

呼吸器外科研修プログラム

指 導 医 中西 浩三

研 修 期 間 基 本 コ ー ス 選 択 科 目 1 ヶ月から9 ヶ月
小児科・産婦人科コース
産 婦 人 科 主 科 選 択 科 目 1 ヶ月から6 ヶ月
小 児 科 主 科 選 択 科 目 1 ヶ月から6 ヶ月

当院のプログラムでは呼吸器外科研修期間は卒後2年目に最短1ヶ月から最長9ヶ月の間で選択可能となっています。さすがに1ヶ月では広い範囲の研修は難しいと思われかもしれませんが、どのような研修期間であれ（例え1日の見学でも）それに合わせた研修指導を行っていきますのでご安心下さい。指導責任者の私は全国的に研修病院として人気の高い某民間病院で外科系指導プログラムの作成に当たり多くの研修医を指導してきました。諸君らの実力もよく知っています。安心して(?)研修においで下さい。

埼玉病院呼吸器外科は肺移植以外の呼吸器・縦隔（一部頸部）の外科治療を取り扱っていますので、特定の疾患や治療に偏ることなく診断から治療までバランスよく研修できます。呼吸器外科医は単純レントゲン写真をどう読むか興味はありませんか？特に呼吸器外科はおそらく他のどの診療科よりも胸部単純レントゲン写真を沢山見て勉強しています。

呼吸器外科の面白さはそこに一定期間身をおいてみないとわかりません。外科医として胸腔鏡手術といった胸部の最先端の手技手術に携わることはもちろん、単純レントゲン写真から始まる画像診断、気管支鏡や縦隔鏡といった検査処置手技の他、病理診断学、肺や循環の生理、理学療法、予後評価のための統計学など坐学にも広く精通していなければなりません。直接体腔内の臓器を見て触り、時には摘出された臓器を調べることによって疾患と正常構造の違いを自ら確認できる外科医の私たちは、手術という「技」だけではなく、興味さえあれば画像診断や検査技術など色々な技術や知識を内科医以上に身につけられるフィールドです。

(1) 将来、外科医（外科専門医）を目指さない人のための呼吸器外科研修

いずれにせよ研修期間により習得できる内容は様々です。解剖を覚えるだけでも1ヶ月では足りないかもしれません。研修の目的を明確にしておく必要があります。目標とするものが何かによって研修内容と目標は当然変わってきます。

将来の希望進路別に考えた研修目標の例（外科医を目指さない人のために）

呼吸器内科を目指す人	主に外科的視点から見た呼吸器疾患について研修します。術前術後の評価、ドレーンの管理や挿入方法、胸腔の解剖と特性など内科では重点的に学ばなかった点を中心に研修してください。
外科系他科を目指す人	胸腔の解剖と術後管理、胸腔内臓器の切除縫合方法などを研修しましょう。
そのほかの場合	主として胸部の解剖を実際に見て胸部レ線読影のための実力をつけましょう。胸腔の特性を理解してください。

(2) 将来、外科専門医を目指す人のための呼吸器外科研修

外科専門医取得のための必須条件に【修練概要のうち診療経験：術者としての最低手術経験数、呼吸器 10 例】があります。肺部分切除を中心としたブラ切除や良性腫瘍切除などが実施すべき手術として考えられます。卒後2年目の短い研修期間でこの条件を完全にクリアするのはきわめて難しいかもしれませんが、胸腔の特性や呼吸器手術の術後管理、画像診断などの知識や技術の習得が充分で、技量が必要な水準に達していると考えた場合、指導医の指導の下で術者として手術を経験してもらいたいと考えます。最も高い研修目標です。そのためには最低限6ヶ月以上の研修期間を設定してください。

(3) 呼吸器外科専門医を目指す人は

呼吸器外科専門医を希望する人はむしろじっくりと勉強してください。研修期間は4ヶ月程度に止めその分を消化器外科や心臓外科などの研修に回すようお勧めします。参考までに当科の専門医養成のカリキュラムを以下に提示いたしました。是非3年目以降の後期研修をご検討下さい。

参考：呼吸器外科専門医養成のためのカリキュラム到達目標

	行動目標	研修方略
1 年 目	呼吸器外科医としての基本的倫理観、論理的思考、基礎的医療技術を習得する。	上級医の指導の下、呼吸器疾患の診断に関する基本的事項について担当症例を通して理解する。診断治療のための診療を計画しその結果を評価できる。胸部外科的救急処置や難易度の低い手術に関して指導医の下実践できる。
2 年 目	診療にあたり患者やその背景を理解した上で行動できる。呼吸器外科に関する知識や技術の向上をはかる。	呼吸器疾患に関する診断技術を習得する。担当症例を通し重篤な合併症を持つ症例も含めて術前術後の管理を習得する。難易度が中等度とされる手術について指導医の指導の下、実践できる。
3 年 目	地域医療における呼吸器外科の立場を理解し行動する。科学者として討論や批評に耐えうる専門的知識を習得し公開の場で自己主張できる。	自己の治療成績を評価公開し改善のための方策を検討できる。病棟業務にあつては後進の指導ができる。難易度が高度とされる手術について指導医の指導の下、実践できる。
4 年 目	对患者関係の医療現場にこだわらず、広く保険医療や医療行政に関心を払い事故・感染対策等の各種委員会に積極的に参画することで病院や組織の円滑運営のためのシステムに寄与する。	高難易度の手術を除く呼吸器外科手術を実施できる。呼吸器外科の専門的知識と技術の向上に加え関連する経済や法律的知識、マネジメント手法を習得し研究成果を学会等に発表する
5 年 目	医療チームのリーダーとしての自覚と責任をもち、全体に配慮しながら日常診療にあたることができる。	呼吸器外科領域におけるあらゆる事態に適切に対応、必要な処置や手術が遂行できる。後進の臨床研究に関する論文や学会発表の指導を行う。

評価：評価はE P O Cを使用し、自己評価及び指導医の評価を行う。